

古河市新公会堂コンセプト案

1. 公会堂の目指す方向性と役割

「目指す姿：だれもが気軽に文化芸術を体感し、表現できる空間と、
次世代への機会の創出」

1.1. 基本的な役割

(1) 古河市の文化の「ド・マンナカ」

① いつでも文化芸術と出会い、触れられる機会づくり

新公会堂を訪れることで日常的に文化芸術に触れることができる、市民生活に文化芸術で彩りや潤いをもたらす文化芸術活動の「ド・マンナカ」を目指します。

② 本格的な舞台芸術の鑑賞・上演の場

良質な舞台芸術を鑑賞できるホールとして、また、市民自らが舞台に立つ本格的なホールとして、市民が様々な形で本格的な文化芸術に触れられる場をつくります。

(2) 賑わいが生まれ、活気があふれる「居場所」

① 賑わいにあふれた、市民の文化芸術活動拠点

活発に文化芸術に取り組む市民の活動拠点として活気に満ち、また、鑑賞に訪れる観客の熱気あふれる、賑わいに満ちた文化活動拠点を目指します。

② 文化芸術活動を通じて育てる、新たな「居場所」

ホール機能だけではなく多彩な利用に対応した機能を持ち、新しい活動や取組みを受け入れ、市民の文化芸術活動のきっかけづくりになる「居場所」をつくります。

(3) 新たなコミュニティを育てる「よりどころ」

① 文化芸術を核としたコミュニティの創出

文化芸術活動に取り組むひとや鑑賞に訪れる市内外からのひとの交流から、文化芸術を核としたテーマコミュニティが生まれ、育まれる環境をつくります。

② 古河で暮らす市民の心地よさ・安心を生み出す場所

晴れ舞台も日常利用も、そして災害時にいたるまで、市民がいつでも集うことができる、心の「よりどころ」となる施設を目指します。

(4) 次世代に向けた文化芸術活動の「育成拠点」

① 未来の古河を担う活動を育む場所

多様化する文化活動を受け入れ、その活動を担う幅広い世代が集まる場として、文化芸術活動への理解、そして参加機会の拡大につながる「育成拠点」を目指します。

② 文化芸術を通して「ちがい」を受け入れ認め合う

さまざまなバックグラウンドを持つ市民がともに文化芸術を体験することで、障害の有無、国籍・人種・性別などの「ちがい」を超え、認め合い、受け入れる機会づくりを目指します。

※240131 素案_v5